

### Ⅲ. 反抗挑戦性障害の診断基準（DSM-IV、参考図書 11 より引用）

- A. 少なくとも6ヶ月持続する拒絶的、反抗的、挑戦的な行動様式で、以下のうち、4つ（またはそれ以上）が存在する。
- (1) しばしばかんしゃくを起こす。
  - (2) しばしば大人と口論をする。
  - (3) しばしば大人の要求、または規則に従うことを積極的に反抗または拒否する。
  - (4) しばしば故意に他人をいらだたせる。
  - (5) しばしば自分の失敗、無作法な振る舞いを他人のせいにする。
  - (6) しばしば神経過敏または他人からイライラさせられやすい。
  - (7) しばしば怒り、腹をたてる。
  - (8) しばしば意地悪で執念深い。

注：その問題行動が、その対象年齢および発達水準の人に普通認められるよりも頻繁に起こる場合にのみ、基準が満たされたとみなすこと。

- B. その行動上の障害は、社会的、学業的、または職業的機能に臨床的に著しい障害を引き起こしている。
- C. その行動上の障害は、精神病性障害または気分障害の経過中にのみ起こるものではない。
- D. 行為障害の基準を満たさず、また患者が18歳以上の場合、反社会性人格障害の基準も満たさない。

#### IV. 行為障害の診断基準 (DSM-IV、参考図書 11 より引用)

A. 他者の基本的人権または年齢相当の主要な社会的規範または規則を侵害することが反復し持続する行動様式で、以下の基準の3つ（又はそれ以上）が過去12ヶ月の間に存在し、基準の少なくとも1つは過去6ヶ月の間に存在したことによって明らかとなる。

##### 人や動物に対する攻撃性

- (1) しばしば他人を虐め、脅迫し、威嚇する。
- (2) しばしば取っ組み合いの喧嘩を始める。
- (3) 他人に重大な身体的危害を与えるような武器を使用したことがある（例えばバット、煉瓦、割れたピン、小刀、銃）。
- (4) 人に対して身体的に残酷であったことがある。
- (5) 動物に対して身体的に残酷であったことがある。
- (6) 被害者に面と向かって行う盗みをしたことがある（例えば、背後から襲う強盗、ひったくり、強奪、武器を使つての強盗）。
- (7) 性行為を強いたことがある。

##### 所有物の破壊

- (8) 重大な損害を与えるために故意に放火したことがある。
- (9) 故意に他人の所有物を破壊したことがある（放火による以外で）。

##### 嘘をつくことや窃盗

- (10) 他人の住居、建造物または車に侵入したことがある。
- (11) 物や行為を得たり、又は義務を逃れるためしばしば嘘をつく（即ち、他人を騙す）。
- (12) 被害者と面と向かうことなく、多少価値のある物品を盗んだことがある（例：万引き、ただし破壊や侵入のないもの、偽造）。

##### 重大な規則違反

- (13) 13歳未満で始まり、親の禁止にもかかわらずしばしば夜遅く外出する。
- (14) 親又は親代わりの人の家にすみ、一晩中、家を空けたことが少なくとも2回あった（又は長期にわたって家にかえらないことが1回）。
- (15) 13歳未満から始まり、しばしば学校を怠ける。

B. この行動の障害が社会的、学業的、又は職業的機能に臨床的に著しい障害を引き起こしている。

C. 患者が18歳以上の場合、反社会性人格障害の基準を満たさない。

## V. LDの診断基準（DSM-IV、参考図書 11 より引用）

### 1. 読字障害

- A. 読みの正確さと理解力についての個別施行による標準化検査で測定された読みの到達度が、その人の生活年齢、測定された知能、年齢相応の教育の程度に応じて期待されるものより十分に低い。
- B. 基準Aの障害が読字能力を必要とする学業成績や日常の活動を著明に妨害している。
- C. 感覚器の欠陥が存在する場合、読みの困難は通常それに伴うものより過剰である。

### 2. 算数障害

- A. 個別施行による標準化検査で測定された算数の能力が、その人の生活年齢、測定された知能、年齢に相応の教育の程度に応じて期待されるものよりも十分低い。
- B. 基準Aの障害が算数能力を必要とする学業成績や日常の活動を著明に妨害している。
- C. 感覚器の欠陥が存在する場合、読みの困難は通常それに伴うものより過剰である。

### 3. 書字表出障害

- A. 個別施行による標準化検査（あるいは書字能力の機能的評価）で測定された書字能力が、その人の生活年齢、測定された知能、年齢に相応の教育の程度に応じて期待されるものよりも十分低い。
- B. 基準Aの障害が文章を書くことを必要とする学業成績や日常の活動（例：文法的に正しい文や構成された短い記事を書くこと）を著明に妨害している。
- C. 感覚器の欠陥が存在する場合、書字能力の困難が通常それに伴うものより過剰である。

### 4. 特定不能の学習障害

上記の3つを満たすわけではないが、それぞれが一緒になって学業成績を著明に妨害している。

## VI. LDの診断基準 (ICD-10、参考図書 10 より引用)

### 1. 特異的読字障害

- A. (1)または(2)のいずれかがあること。
- (1) 読みの正確さと理解力が、その小児の歴年齢と全体的な知能を基にして期待される水準から、少なくとも2標準偏差劣る。このさい、読字能力とIQは、その小児の文化・教育体系において標準化された検査を個別に施行した評価を用いておくこと。
- (2) 過去に重度な読字困難の既往があった、または幼い頃の検査が基準A(1)に該当していたことに加えて、綴字検査の成績が、その小児の歴年齢とIQを基にして期待される水準から少なくとも2標準偏差劣る。
- B. 基準A項の障害のために、読字能力を要する学業の成績あるいは日常生活の活動に明らかな支障をきたしていること。
- C. 視聴覚能力の障害または神経学的障害に直接起因するものではないこと。
- D. 平均的に期待される範囲の就学歴であること (つまり著しく不適切な教育歴ではない)。
- E. 主要な除外基準：標準化された検査を個別に施行して、IQが70以下。

### 2. 特異的書字障害

- A. 標準化された書字検査における評点が、その小児の歴年齢と全体的な知能を基にして期待される水準から、少なくとも2標準偏差以下である。
- B. 読字の正確さと理解力および計算力の評点は、正常範囲内であること (平均から±2標準偏差以内)。
- C. 重度な読字困難の病歴がないこと。
- D. 平均的に期待される範囲の就学歴であること (つまり著しく不適切な教育歴ではない)。
- E. 書字学習の早い段階から書字困難が存在すること。
- F. 基準A項の障害のために、書字能力を要する学業の成績あるいは日常生活の活動に明らかな支障をきたしていること。
- G. 主要な除外基準：標準化された検査を個別に施行して、IQが70以下。

### 3. 特異的算数能力障害

- A. 標準化された算数検査における評点が、その小児の歴年齢と全体的な知能を基にして期待される水準から、少なくとも2標準偏差以下である。
- B. 読字の正確さと理解力および書字能力の評点は、正常範囲内であること (平均から±2標準偏差以内)。
- C. 重度な読字困難または書字困難の病歴がないこと。
- D. 平均的に期待される範囲の就学歴であること (つまり著しく不適切な教育歴ではない)。
- E. 算数学習の早い段階から算数の困難が存在すること。
- F. 基準A項の障害のために、算数能力を要する学業の成績あるいは日常生活の活動に明らかな支障をきたしていること。
- G. 主要な除外基準：標準化された検査を個別に施行して、IQが70以下。

## Ⅶ. LD等の調査協力研究者会議（文部省）の定義

（平成11年7月「学習障害及びこれに類似する学習上の困難を有する児童生徒の指導方法に関する調査研究協力者会議」報告より引用）

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達には遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

#### 1. 書籍

著者氏名	書籍全体の編集者名	書籍名 (分担執筆タイトル)	出版社名	出版地	出版年
小枝達也 加我牧子 杉山登志郎 橋本俊顕 原 仁 宮本信也	小枝達也	発達がちよっと気になる子どもの保健指導 (仮題)	診断と治療社	東京	2002 予定
杉山登志郎 宮本信也 小枝達也 他	J S P P (日本小児精神医学研究会) 編集委員会	学校における子どものためのメンタルヘルス対策マニュアル	ひとなる書房	東京	2001
加我牧子	加我君孝	耳鼻咽喉科診療プラクティス (てんかんに伴う中枢性難聴)	文光堂	東京	2001
加我牧子	日本小児神経学会教育委員会	小児神経学の進歩 (小児の高次脳機能障害)	診断と治療社	東京	2001
加我牧子	医療研究推進財団	言語聴覚士指定講習テキスト (言語発達障害)	医歯薬出版	東京	2001
加我牧子	多賀須幸男 他	今日の治療指針 (精神遅滞の医学的諸問題)	医学書院	東京	2001

#### 2. 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
橋本俊顕 小枝達也	自閉症の病像理解と治療	脳と発達	32 巻 3 号	238-240	2001
小枝達也 宮本信也 他	ADHDを取り巻く医療のあり方について	脳と発達	33 巻 2 号	158-161	2002
加我牧子 他	注意欠陥多動障害をめぐって	医学の歩み	197 巻	556-558	2001
加我牧子	自閉症をめぐって -特集にあたって-	精神保健研究	47 巻	3	2001
加我牧子	中枢性聴覚障害	医学の歩み	200 巻	181-182	2002